

(7) 帯広川

帯広川からの取水は、雑用水（修景用）での利用がなされているが、これまでに渇水被害を生じた事例はない。

河川空間の利用としては、釣りを楽しんでいる姿が見受けられるほか、環境教育の場としても利用されている。また、地域住民の散策、通勤・通学、休日のサイクリングなど自転車通路としても利用されている。このような河川空間の利活用の現状を踏まえ、「かわまちづくり」^{注1)}の精神に基づく河川整備を行う必要がある。

河川環境として、イマナイ川合流点から源流までの上流部は、周辺に牧草地や畑地が形成されている。河床勾配は 1/100～1/150 程度であり、河床は主に礫で構成されている。魚類では、礫底を好むニジマス、瀬や淵などに生息するサクラマス（ヤマメ）や石礫底の瀬などを利用するフクドジョウなどの魚類が生息している。植物では、河川沿いにヤナギ林や草地がみられ、ハルニレ・ヤチダモ林が点在している。その他にカラマツ植林が分布する。鳥類では、原野に生息するオオジシギやシマアオジ（平成 8～16 年に確認）、水辺に生息するマガモなどが確認されている。哺乳類では、エゾモモンガなどが生息している。両生類では、河畔林の林床でエゾサンショウウオの産卵池が確認されている。

^{しんかわぼし}新川橋付近からイマナイ川合流点までの中流部は、周辺に畑地が形成されている。河床勾配は 1/150～1/200 程度であり、河床は礫が主体となっている。魚類では、瀬や淵などに生息するサクラマス（ヤマメ）やウグイなどが生息している。植物では、河川沿いにヤナギ林や草地がみられ、ハルニレ・ヤチダモ林が連続して分布している。河道内の林床はヨシ等が分布し、水際にノダイオウ、堤防付近にケショウヤナギやアカンカサスゲなどが生育している。鳥類では、水辺に生息するショウドウツバメのほか、オオジシギの繁殖行動やカワセミの営巣地が確認されている。

十勝川合流点から新川橋付近までの下流部は、周辺に市街地や畑地、耕作地が形成されている。河床勾配は 1/200～1/300 程度であり、河床は主に礫で構成されている。



▲ 共栄橋より下流（上流部）



▲ 南 7 線橋より上流（中流部）



▲ 新川橋より下流（下流部）

注 1) 「かわまちづくり」: 河川空間とまちの空間の融合が図られた、良好な空間形成を目指す取組のこと。

魚類では、緩やかな流れを利用するスナヤツメ北方種、瀬や淵などに生息するウグイ、石礫底の瀬などを利用するハナカジカなどが生息している。植物では、ヤナギ林がモザイク状にみられるほか、河道内にヨシ等が分布しており、水際にノダイオウ、堤防付近にケショウヤナギやアカンカサスゲなども確認されている。鳥類では、水辺に生息するハクセキレイやアオサギ、カワセミなどが確認されているほか、オオジシギの繁殖行動が確認されている。哺乳類では、ネズミ類やコウモリ類などが生息している。

水質については、帯広川は公共用水域における「生活環境の保全に関する環境基準」に基づく類型指定がされており、ウツベツ川合流点から下流（ウツベツ川含む）はB類型、上流はA類型である。令和元年度の基準点におけるBOD（生物化学的酸素要求量）75%値は、札内川合流点前（B類型指定）で2.4mg/ℓ、西8条橋（A類型指定）で0.8mg/ℓで、それぞれ環境基準（B類型の基準値3mg/ℓ以下、A類型の基準値2mg/ℓ以下）を満たしている。

このような現状を踏まえ、地域住民や関係機関との連携を図りながら、河川環境を保全していく必要がある。

(8) ウツベツ川

ウツベツ川は現在のところ河川の水利用はない。

現在の河川空間利用としては、環境教育の場として利用されているほか、地域住民の散策、通勤・通学、休日のサイクリングなど自転車通路としても利用されている。

河川環境として、空港橋から大空二号橋までの上流部は、周辺に市街地が形成され、一部に緑地や耕作地がみられる。河床勾配は1/200程度であり、河床は砂礫で構成されている。魚類では、石礫底の瀬などを利用するフクドジョウや緩やかな流れを利用するエゾトミヨなどが生息している。植物では、クサヨシ群落が広範囲に分布し、水域から水際にはノダイオウ、ホソバドジョウツナギ、エゾミクリのほか、陸域にはアカンカサスゲなどが生育している。鳥類では、オオジシギの繁殖行動やハイタカの飛行が確認されている。哺乳類では、ヒナコウモリ科の一種が確認されている。両生類では河道内に広くエゾアカガエルが生息している。

緑ヶ丘橋から空港橋までの中流部は、周辺に市街地や緑地公園が形成されている。河床勾配は上流部同様1/200程度であり、河床は砂礫で構成されている。魚類では、石礫底の瀬などを利用するフクドジョウや緩やかな流れを利用するエゾトミヨなどが生息している。植物では、クサヨシ群落が広範囲に分布し、水域から水際にノダイオウ、ホソバドジョウツナギ、エゾミクリのほか、陸域にはチドリケマンなどが生育している。鳥類では、住宅地や農耕地に生息するヒヨドリのほか、オオジシギの繁殖行動が確認されている。哺乳類では、ヒナコウモリ科の一種が確認されている。両生類では、河道内に広くエゾアカガエルが生息している。

帯広川合流点から緑ヶ丘橋までの下流部は、周辺に市街地が形成されている。河床勾配は1/200～1/300程度であり、河床は砂礫で構成されている。魚類では、瀬や淵などに生息するエゾウグイ、石礫底の瀬などを利用するフクドジョウやハナカジカなどが生息しており、サクラマスの上流が確認されている。植物では、ヤナギ類やシラカンバが点在しており、河道内にはクサヨシ群落が広範囲に分布し、水域から水際にヒメウキガヤ、ノダイオウなど、陸域にはケショウヤナギなどが生育し



▲南10線橋より下流（上流部）



▲善隣橋より上流（中流部）



▲蹄橋より上流（下流部）

ている。鳥類では、住宅地や農耕地に生息するヒヨドリやカラヒワなどのほか、水辺に生息するマガモなども確認されている。哺乳類では、ヒナコウモリ科の一種が確認されている。両生類では河道内に広くエゾアカガエルが生息している。

水質については、ウツベツ川は公共用水域における「生活環境の保全に関する環境基準」に基づく類型指定がされており、B 類型となっている。帯広市により中駒橋と芙蓉橋において定期的な水質調査が実施されており平成 29 年度の調査では、BOD（生物化学的酸素要求量）75%値は、中駒橋では 0.5mg/ℓ未満、平成 30 年度の調査では、芙蓉橋では 0.8 mg/ℓで、ともに AA 類型（基準値 1mg/ℓ以下）程度の水質である。

また、平成 28 年度に高倉橋下流、蹄橋上流、西 13 条橋において水質調査が実施された。調査結果によると、BOD（生物化学的酸素要求量）の最大値は高倉橋下流では 1.6mg/ℓ、蹄橋上流では 1.2mg/ℓ、西 13 条橋では 1.2mg/ℓとなっており、A 類型（基準値 2mg/ℓ以下）程度の水質である。

このような現状を踏まえ、地域住民や関係機関との連携を図りながら、河川環境を保全していく必要がある。

(9) 柏林台川・第二柏林台川

柏林台川および第二柏林台川は現在のところ河川の水利用はない。

水辺空間の利用として、広陽橋と柳橋の間に散策路と親水広場があり、周辺住民の憩いの場や子どもたちの遊び場として親しまれているほか、地域住民の散策、通勤・通学、休日のサイクリングなど自転車通路としても利用されている。

柏林台川の河川環境として、周辺は市街地が形成されている。河床勾配は 1/200～1/400 程度であり、河床は砂礫で構成されている。魚類では、瀬や淵などに生息するサクラマス（ヤマメ）やウグイのほか、石礫底の瀬などを利用するフクドジョウや緩やかな流れを利用するイバラトミヨ（トミヨ属淡水型）などが生息している。植物では、ヤナギ類やシラカンバが点在し、水域から水際にはノダイオウ、エゾミクリなどが生育している。鳥類では、住宅地や農耕地に生息するヒヨドリやハシブトガラスなどが確認されており、水辺に生息するマガモなども確認されている。哺乳類では、コウモリ目の一種が確認されている。両生類では、河道内に広くエゾアカガエルが分布している。

第二柏林台川の河川環境として、周辺は市街地が形成されている。河床勾配は 1/150～1/200 程度であり、河床は砂礫で構成されている。柏林台川と連続しているため、柏林台川と同様の魚類が生息していると考えられる。植物では、ヤナギ類とシラカンバが点在するが、水域から水際にはノダイオウ、ホソバドジョウツナギなどが生育している。鳥類では、住宅地や農耕地に生息するヒヨドリやハシブトガラスなどが確認されており、水辺に生息するカモ類なども確認されている。哺乳類では、コウモリ目の一種（フン）が確認されている。両生類では広くエゾアカガエルが分布している。

水質については、柏林台川は公共用水域における「生活環境の保全に関する環境基準」に基づく類型指定がされていないが、帯広市により柏西台橋において定期的な水質調査が実施されており平成 29 年度の結果では、BOD（生物化学的酸素要求量）75%値は 0.6mg/l で、AA 類型（基準値 1mg/l 以下）程度の水質である。また、平成 28 年度に柏西台橋、柏西第 2 号橋下流、柏林台 3 号橋上流において水質調査が実施された。調査結果によると、BOD（生物化学的酸素要求量）最大値は柏西台橋で



▲広陽橋上流の散策路（柏林台川）



▲柏西 2 号橋より上流（柏林台川）



▲新開橋より下流（第二柏林台川）

1.2mg/ℓ、柏西第2号橋下流で1.5mg/ℓ、柏林台3号橋上流で1.4mg/ℓ、となっており、A類型（基準値2mg/ℓ以下）程度の水質である。

このような現状を踏まえ、地域住民や関係機関との連携を図りながら、河川環境を保全していく必要がある。

(10) 伏古別川

伏古別川は現在のところ河川の水利用はない。

水辺空間の利用として、啓北橋上流に散策路と親水広場があり、周辺住民の憩いの場や子どもたちの遊び場として親しまれている。

河川環境として、周辺は市街地が形成されている。河床勾配は1/400～1/600程度であり、河床は砂礫で構成されている。魚類では、瀬や淵などに生息するエゾウグイや緩やかな流れを利用するエゾホトケドジョウ、イトヨ日本海型などが生息している。植物では、ヤナギ類の低木が点在し、水域から水際にはミクリやエゾミクリ、ホソバドジョウツナギなどが生育している。鳥類では、住宅地や農耕地に生息するカワラヒワやハシブトガラスなどが確認されており、オオジシギの繁殖行動も確認されている。哺乳類では、ヒナコウモリ科の一種が確認されている。

水質については、伏古別川は公共用水域における「生活環境の保全に関する環境基準」に基づく類型指定がされていないが、帯広市により北親橋において定期的な水質調査が実施されており平成30年度の結果では、BOD（生物化学的酸素要求量）75%値は2.3mg/lと、B類型（基準値3mg/l以下）

程度の水質である。また、平成27年度に水質調査が実施された。調査結果では、BOD（生物化学的酸素要求量）最大値は2.0mg/lとなっており、A類型（基準値2mg/l以下）程度の水質である。

このような現状を踏まえ、地域住民や関係機関との連携を図りながら、河川環境を保全していく必要がある。



▲啓北橋上流の散策路



▲伏古別橋より上流

(11) 美生川

美生川からの取水は、農業用水での利用がなされているが、これまでに渇水被害を生じた事例はない。

河川空間の利用としては、芽室町市街地に隣接する河川敷がパークゴルフ場として利用されているほか、釣りを楽しむ人々の姿が見受けられる。

河川環境として、上流域の山地には森林が広がっており、平野部となる中流域からは畑地が広くみられるようになる。下流域では芽室町市街地が隣接する。河床勾配は1/100～1/120程度であり、河床は砂礫で構成されている。植物では、ヤナギ類やシラカンバ、ケヤマハンノキなどの河畔林が形成され、礫河川を象徴するケショウヤナギもみられる。対象河川周辺における動物として、魚類では、瀬や淵などに生息するサクラマス（ヤマメ）や石礫底の瀬などを利用するハナカジカなどが生息している。鳥類では、住宅地や農耕地に生息するヒヨドリやカワラヒワなどのほか、水域を利用するハクセキレイなども分布している。哺乳類では、エゾシカやキタキツネなどが生息している。

水質については、美生川は公共用水域における「生活環境の保全に関する環境基準」に基づく類型指定がされており、全域でAA類型である。令和元年度の基準点におけるBOD（生物化学的酸素要求量）の75%値は0.5mg/ℓ未満で、環境基準値（AA類型の基準値1mg/ℓ以下）を満たしている。また、平成29年度に新嵐山橋において水質調査が実施された。調査結果によるとBOD（生物化学的酸素要求量）測定値は、0.6mg/ℓで、環境基準値（AA類型の基準値1mg/ℓ以下）を満たしている。

このような現状を踏まえ、地域住民や関係機関との連携を図りながら、河川環境を保全していく必要がある。



▲西伏美橋より下流（上流部）



▲新嵐山橋より上流（中流部）



▲大成橋より下流（下流部）

(12) ピウカ川

ピウカ川は現在のところ河川の水利用はない。

河川空間の利用としては、環境学習のイベントが開催されるなど環境教育の場として利用されている。

河川環境として、上流域から下流域にかけて畑地が広がっており、下流域では芽室町市街地が隣接する。河床勾配は 1/150 程度であり、河床は砂礫で構成されている。植物では、ヤナギ類やシラカンバなどの河畔林が形成され、水際にはヨシ類やアキタブキなどがみられる。対象河川周辺における動物として、魚類では、瀬や淵などに生息するサクラマス（ヤマメ）や石礫底の瀬などを利用するハナカジカなどが生息している。鳥類では、住宅地や農耕地に生息するヒヨドリやカワラヒワなどのほか、水域を利用するマガモなども分布している。哺乳類では、エゾシカやキタキツネなどが生息している。

水質については、ピウカ川は公共用水域における「生活環境の保全に関する環境基準」に基づく類型指定がされていないため、定期的な水質調査はされていないが、平成 29 年度に高岩橋及び美生六号橋において水質調査が実施された。調査結果によると、BOD（生物化学的酸素要求量）測定値は、ピウカ川①高岩橋（下流域）で 0.5mg/ℓ、ピウカ川②美生六号橋（上流域）で 0.6mg/ℓ で、AA 類型（基準値 1mg/ℓ 以下）程度の水質である。

このような現状を踏まえ、地域住民や関係機関との連携を図りながら、河川環境を保全していく必要がある。



▲西美生橋より上流（上流部）



▲美生六号橋より下流（中流部）



▲芽室公園・柏苜橋より上流（下流部）